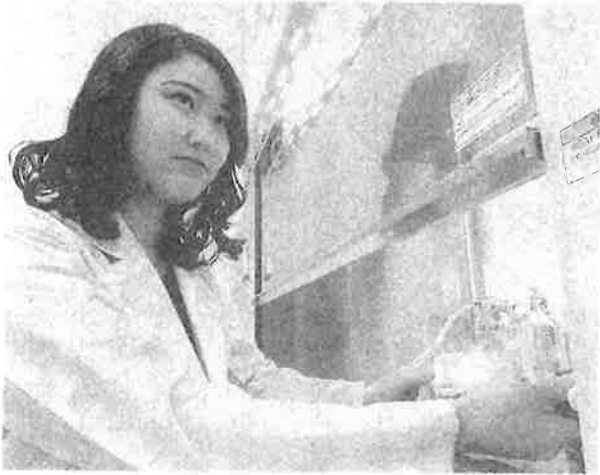
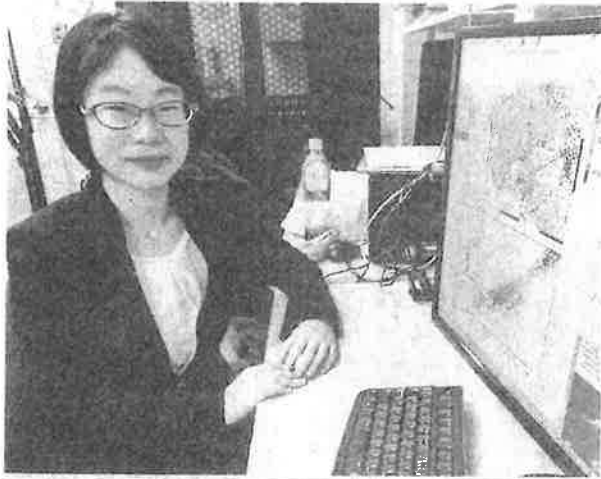


リケジョも 栄誉の場に

本庶さん ノーベル授賞式



①慶応大でiPS細胞の研究に携わる伊津野さん②東京工業大で地震学を研究する土山さん(いずれも東京都内)



学生2人「研究の魅力感じたい」

スウェーデンで10日(日本時間11日)に開かれるノーベル賞の授賞式や晩さん会に、日本から女子大生2人が参加する。公益財団法人・国際科学技術財団(東京都)が1987年から、科学研究に携わる学生を選考し派遣しており、今年は慶応大医学部4年伊津野舞佳さん(22)(東京都品川区)と、東京工業大理学部4年土山絢子さん(22)(川崎市)が選ばれた。2人は「世界最高の舞台上で研究の魅力を感じたい」と話し、4日、現地へ向けて出発した。

現地では毎年、授賞式に「国際青年科学セミナー」が合わせて各国の学生たちが開かれ、同財団が18〜24歳交流する「ストックホルム」の学生2人を派遣。今年

生理学・医学賞を受賞する本庶佑・京都大特別教授(76)らと懇談するほか、現地の高校生に自身の研究内容を発表する予定だ。伊津野さんは今春から、iPS細胞(人工多能性幹細胞)を使って認知症の原因を探る研究に関わっている。講義や実習で多忙な中、昼休みや週末も研究室で細胞を培養。「本庶先生は医学に関わる者なら誰もが知る

人。医師が研究する意義について直接お聞きし、進むべき道を考えたい」と話す。土山さんの専門は地震学。地下の深い場所が震源となる「深発地震」のメカニズム解明を目指し、気象庁などの観測データの解析に取り組んでいる。「様々な受賞者の講演を聴き、科学の本質を学びたい。ほとんど地震が起らないスウェーデンの人たちに、地震のことを少しでも伝えられたら」と意気込んでいる。